



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2007.4.23

No. 30 - 34

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5 - 11 - 4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office30@alpajapan.org

IFALPA 総会報告

ALPA Japan より 706 支援に対するお礼のスピーチ

(20 March 2007, Dubrovnik, Croatia)



2007年3月16日から20日までクロアチアのドブルフニクで行われた IFALPA 総会において、日本における 706 裁判の取り組みに対する IFALPA および加盟国による熱心な支援に対し、日乗連の石山勉議長代行と当該機長である高本孝一機長から経過報告とお礼の挨拶が行われました。また、ALPA Japan からは特に 706 便裁判支援に対する感謝の気持ちとして、IFALPA 本部に「博多人形」が贈られました。

日乗連からのスピーチは満場の拍手で祝福され、IFALPA の Dennis Dolan 会長からは「世界の乗員が一致して取り組んだ成果。これからも日本の法制度改善に協力していく」との講評が行われました。

～ 日乗連 石山勉議長代行による経過報告 ～

会長、役員の方、会場の皆さん、おはようございます。ALPA Japan の議長代行で、Chief Delegate の石山勉です。第 62 回 IFALPA 年次総会の場で皆様にお会いできたことを大変嬉しく思います。また、日本の代表として、この素晴らしい News を皆様に報告できることは、私にとって大変光栄であり誇りに思います。

では、JL706 便の刑事裁判について報告します。

香港発名古屋行き JL706 便 (MD-11) は、出発時に Turbulent Air が予報されており、客室乗務員は離陸前と降下開始前の両方で揺れに対する安全指示を受けていました。



FL170 を降下中、重症を伴う怪我人が出る程の激しい機首変動が発生しました。Pitch は 15 秒間という短い時間に 5 回も激しく変動しました。Pitch の変動中は Pitch の動きに迷いがなく、まるで振り子運動のようでした。しかし、Pilot すなわち人間がこの様な動きを引き起こすことは不可能です。

時間の関係上詳しい説明は省きますが、今年の秋の LEG 委員会と AA 委員会において、改めて詳細な報告をする予定です。

警察は着陸後高本機長を尋問し、その後も事故調査情報を刑事捜査に利用しました。事故調査委員会は高本機長が「Autopilot に Override Force を加え、Pitch 変動を引き起こした」と結論付けました。私達は事故調査委員会が、揺れが発生した状況や MD-11 の運航を良く理解していないと確信していましたが、彼等は不正確な事実認定を基に、不正確な結論を導き出しました。

しかし残念な事に、警察は高本機長を業務上過失致死傷罪で起訴する証拠資料として、事故調査報告書の全てを利用したのです。日本の場合、検察は殆どの場合、常に事故に遭った関係者を起訴します。

一審では、裁判官は事故調査報告書の推定事実を認めましたが、高本機長は結果予測ができなかったと判断し、無実と判決しました。検察は高裁に上告しました。控訴審では、裁判官は事故調査報告書の内容を認めず、再度高本機長を無罪と判決しました。



今回の判決は世界の航空安全に寄与する重要な判決であると同時に、日本の社会全体に寄与する偉大な一歩となりました。なぜなら、706 便事故裁判の取り組みを通して「事故調査と刑事責任の追及は分離すべきである」という世論が、今日本の社会に生まれているからです。

この裁判での素晴らしい完全な勝利は、IFALPA と IFALPA 加盟協会の力強いサポートと援助があってこそなし得たことだと思えます。ここに改めて ALPA Japan 全てのメンバーを代表し、皆さんの完璧なサポートと援助に対し心から御礼申し上げます。

この判決を機にまた皆さんのサポートを頂きながら、我々 ALPA Japan は、今後も ICAO Annex 13、Attachment E、すなわち“事故調査報告書は刑事裁判の証拠資料として利用されるべきでない。事故調査は刑事責任の追及とは分離すべき。そして、事故調査機関のシステムと能力の改善”を日本でも実現させる為に更に活動して行きます。

今回の「偉大な一歩」は、強靱な忍耐と、真実への探究心と、正義への信念を持ち長期間の裁判を闘ってこられた高本機長と、その彼を愛情豊かに見守り支えてこられた奥様とご家族によってもたらされたと言っても過言ではありません。高本機長とご家族に改めて慰労と感謝の気持ちを表したいと思えます。では皆様、高本機長をご紹介します。

～ 高本孝一機長によるお礼のスピーチ ～

皆さん、こんにちは。JL706 便の機長であった高本孝一です。

私は、1 月 9 日に無罪の判決を受けました。私はこの結果に大いに満足していますし、



皆さん方にこの裁判を支援していただいたことに対する心からの感謝を述べる機会を持てましたことを、大変うれしく思います。

5 年間に及ぶ裁判の間、IFALPA とそのメンバーは常に私の味方に立ち、裁判を支援してくださいました。「事故調査と捜査の分離」を働きかけるため、IFALPA は日本の関係官庁に書簡を送り、

政府関係者に何度も要請に赴き、見解やプレスリリースをタイムリーに発表し、何名かの IFALPA 役員の方々はわざわざ裁判の傍聴も行って下さいました。また、昨年暮に 706 裁判に関するアンケートが配布された折、メンバー会員は迅速に回答を寄せていただいたことには、大変感銘を受けました。

このような IFALPA とそのメンバーによる継続的な支援は、名古屋高裁の判断に少なからぬ影響を与えたであろうことに、私は確信を持っています。この無罪判決は、日本の事故調査委員会による 706 便事故調査に多くの間違いがあったことを明白に示しています。

706 の裁判を通して、日本の国民は事故調査委員会による調査を改善し、ICAO Annex13 を遵守することの重要性を認識しました。ALPA Japan は日本の状況を改善する取り組みをすでに開始しましたし、私も ALPA Japan の仲間と共に最善を尽くすつもりです。我々の目的を達成し、日本と世界の航空の安全を推進するには、IFALPA とメンバー協会の協力が非常に重要だと考えます。

この裁判を通じ、私はパイロットの心の温かさと誠実さを心底感じる事が出来ました。そして、それこそが私がこの裁判から得た天恵だと思えます。皆さんが常にエアマンシップを発揮してくれたことに感謝いたします。私は、皆さん方の支援と親切を忘れることはありません。

私は自分がパイロットであり、IFALPA のメンバーであることをたいへん誇りに思います。どうもありがとうございました。

IFALPA Dennis Dolan 会長の挨拶

ALPA Japan からのすばらしい報告、ありがとうございました。また、IFALPA へのとても美しい贈り物にも感謝いたします。

このプレゼンテーションの本質は、IFALPA のような国際的組織の価値と重要性を示しています。高本機長に降りかかった出来事は、いつどこで誰に降りかかってもおかしくないということは明白だと私は思います。不幸なことに、それは高本機長の身に起きてしまったということです。その結果、IFALPA は彼と ALPA Japan を支え、可能な限りの支援 100% の支援に加えて我々が出来る全てのことを行いました。これは誰も落伍者を出したくない組織的取り組みでしたが、ALPA Japan が最終的には今我々がここにあるような結果を、努力と意志の力と献身的な活動によって追い求めたことによって、この件にかかわった我々全てが満足すべき勝利を手にすることが出来ました。

私はまた、高本機長自身と彼がこの試練の中で乗り越えなければならなかった精神的、身体的そして個人的な事柄にも思いを致したいと思えます。先ほどのプレゼンテーションは、まさに事故当時に当該機に起きた激しい機首振動の様子をグラフで如実に示しました。パイロットであれば、今のプレゼンテーションによってこの機体の安定性がどのようになったか分かりますし、機体が安定性の範囲を越えたときには悲劇的な状況になり、機体が破壊しかねないということも知っています。このケースでは、高本機長は最終的にコントロールを取り戻し、私に言わせれば彼が飛行機を救ったのです。彼の行動によって飛行機は無事に着陸することが出来、その後の事故調査を可能にしました。



私は高本機長のようなパイロットを“静かなる英雄”と呼びます。このようなパイロットは、日々の仕事では自分が認められようとは思わず、自分の仕事をプロフェッショナルとして完遂します。この“静かなるプロフェッショナリズム”が、今回のようなことが起きた際にパイロットを勝利に導き、最終的に高本機長の潔白が証明されて彼に着せられた全ての罪状から完全に開放されたように、大変満足な結果をもたらすのです。

このケースは非常に良い結果に終わり、いろいろな観点からも大成功でしたが、日本においては航空事故に対して刑事責任が課せられるという問題は終わっていないことを忘れてはいけません。我々は日本におけるこの問題に関する法律を変える取り組みを開始しなければなりませんし、世界中で同様の裁判が行われている地域での法改正の取り組みも行わなければなりません。

ここに再度、我々を代表して ALPA Japan の仲間と高本機長がこの戦いを頑張りぬいたことを、私とともに祝福して欲しいと思えます。どうもありがとうございました。